

平成27年 5月28日開催

石狩市教育委員会会議（5月定例会）資料

<報告事項>

- 1 厚田区及び本町・八幡地区小中学校の整備に係る検討会（意見のまとめ）
について・・・・・・・・P1～P9
- 2 平成27年度市内小中学校の児童生徒数・学級数について・・・・P10

石 狩 市 教 育 委 員 会

〈報告事項〉

- ①厚田区及び本町・八幡地区小中学校の整備に係る検討会（意見のまとめ）
について

厚田区小中学校の整備に係る検討会

意見のまとめ

平成27年 4月14日

厚田区小中学校の整備に係る検討会

座長 佐藤勝彦

石狩市教育委員会

教育長 鎌田英暢 様

《厚田区小中学校の整備に係る検討会》

意見のまとめ

【総論】

厚田区小中学校の整備に係る検討会（以下「検討会」という。）では、人口減少・少子高齢化といった社会情勢下にある厚田区における今後の小中学校の整備のあり方について、市教育委員会（以下「市教委」という。）に意見を述べる場として、これまで5回に亘り会議を開催しました。

検討会では、「子どもたちのより良い学習環境を目指す」という考えを基本に『知る（今の学校のこと）』『考える（これからの学校のこと）』『まとめる（整備のあり方）』という3つのステップで進めることとしました。

はじめに『知る』では、今後緩やかに児童生徒数が減少していくこと、厚田中学校を除くすべての学校が複式編成となっていること、また、施設の老朽化といった学校の状況について説明を受け、現在設置されている3つの小学校と2つの中学校を現状のまま維持し続けることは、極めて困難であると認識しました。

ただし、地域住民や保護者の感情としては、地元から学校が無くなることへの寂しさや、過疎化に拍車がかかるのではないかとという不安もあり、可能な限り存続させてほしいとの意見が出されました。

しかしながら、子どもたちの社会性を育み学校活動を充実させるためには一定の規模が必要であり、そのためには、今ある学校を統合することも必要ではないかという意見も出されました。

次に、ステップ2の『考える』において、「こんな学校があつたらいいな！」というテーマでワークショップを行い、委員全員が様々な視点から意見を述べました。

その結果、見えてきたのは、地域に良い学校をつくりたいという希望であり、そこから浮かび上がってきたのは、地域の事情や個々の課題はありつつも、その思いを実現するには一定の規模を確保すること、そのために機能を集約していく、いわゆる学校統合について具体的に検討すべきではないかということです。

また、具体的整備については、ステップ1、2においても意見が出されたところですが、今後は、それらの意見を踏まえ、市教委より具体的な原案を示していただき、それを基に議論することが速やかな進展につながると考えます。

■ 検討内容 1 どのような学校が良いのか

総論でも述べたとおり、検討会では「こんな学校があつたらいいな！」というテーマで『Brainwriting（ブレインライティング）※』を行い、委員それぞれが理想の学校について意見を提出しました。

提出された意見は、「全道一の学校にする」を柱に「施設・設備」「学校の統廃合整備」「地域支援」「教師と指導」「流入・受入体制」といった大項目にグループ化し、その中でさらに具体的な項目に分類しました。（別紙●「ブレインライティングのまとめ」参照）

この作業によって見えてきたのは、小中の関わりを持ちながら学校を統合すべきという意見で、具体的には、災害に対応し安全・安心であり、保育所や幼稚園を含む連携教育や、地場産業の体験を取り入れながら、適正な人数での教育が受けられ、児童生徒が生き生きしている、そんな魅力あふれる学校の姿です。

こうした魅力ある学校を作ることができれば、他の町からも児童生徒が集まり、学校の規模も維持できるのではないかと考えています。

（主な意見）

- ・ 幼小中一貫教育のできる学校を
- ・ コミュニティスクールを考えた魅力ある学校
- ・ 災害に対応した学校
- ・ きれいな学校
- ・ 適正な人数での教育が受けられる機会（複式編成でない）
- ・ クラブ活動の選択ができる
- ・ 落ちこぼれのない学校
- ・ パソコンなどの現代的教育

※Brainwriting（ブレインライティング）

Brainstorming（ブレインストーミング）の1種。グループのメンバーが、ある問題について自由にアイデアを発言し合うのがブレインストーミングですが、意見を紙に書き出す方法がブレインライティングです。

■ 検討内容 2 学校を整備する時期

学校の整備時期について、検討会としては、できる限り速やかに結論を見出すべきとの基本的な考えに立ちつつも、整備に当たっては市の財政計画等関連する事項もあることから、具体的な時期を明言するには至りませんでした。

しかし、仮に新たな学校を建設する場合は、教育内容の検討やそれらを反映した具体的な設計、そして実際の施設建設を経て開校となりますが、その期間は最低でも3年程度を要するとの説明もあったことから、学校の整備は諸般の事情を踏まえつつも、できるだけ早期に行うことを望みます。

今後、市教委は施設整備について具体的な原案を示していただくとともに、施設が整備されるまでの期間においても、教育環境の改善に関して解決可能な課題については、必要な措置を講じられることを要望します。

(主な意見)

- ・ 小学校については急ぐ必要はないが、中学校は部活動などを考慮し、早急に統合すべき。
- ・ 学校の老朽化が進んでいるので、早急に新たな学校を作ってほしい。

■ 検討内容 3 学校を整備する場所

現在の学校がそれぞれの地域の特性を活かしながら行ってきた教育や、地域との関わりの中で果たしてきた役割、歴史などを考えると、それぞれの地域の学校への思いは大切にしなければなりません。こうしたことから、検討会としては、整備する場所について具体的に明言するには至りませんでした。

しかし、その一方で、子供の減少と施設の老朽化といった現状を踏まえる中で、小規模ながらも子供たちに十分な教育を施すためには、小学校、中学校をともに集約し、施設環境を整備すると同時に、運営面において地域が学校に関わりながらともに連携を深めていくことが重要になってきます。

このため、学校の整備に当たっては、単に学校教育の機能のみならず、まちづくりの視点も踏まえ、場所を定める必要があると考えます。

(主な意見)

- ・通学に便利な場所
- ・何かあった時に親がすぐに行けそうな場所
- ・子どもが学校に楽しく通学したがる場所

■今後の検討について

今後、学校を整備する場所や時期などの具体的な検討を進めるにあたって、市教委は地域説明会の開催や、まちづくり及び学校の統廃合について専門的知見を有する外部の人材からの助言を受けるなど、様々な手法により広範に情報を収集するとともに、それらを適宜地域に提供することを望みます。

■付帯意見

- ① 本検討会は、児童生徒数の減少や施設の老朽化といった課題を抱える厚田区の小中学校の整備のあり方について、市教委に意見を述べることを目的として設置されましたが、当区のみで学校を統合しても、少子化が進む状況下においては、いずれ同様の問題が生じることが懸念されます。

このことから、現在、並行して検討が行われている本町・八幡地区の小中学校整備の方向性も注視しながら、検討を進める必要があると考えます。

特に、旧石狩市と隣接している聚富地区については、トーメン団地内の虹が原・緑ヶ原地区の通学区域のあり方について、原則にとらわれることなく、実情を踏まえた対応が必要と考えます。

また、仮に厚田区内で学校統合が決定された場合においても、聚富地区については、通学先を選択できる枠組みをつくるよう要望します。

- ② 中学校の部活動については、生徒数の減少から複数校が合同で活動している状況にあり、平日の練習はもとより、練習試合や各種大会への参加のため、保護者が送迎している実態もあることから、こうした状況を改善するため、地域交通やスクールバスの活用による移動手段の確保を要望します。

本町・八幡地区小中学校の 整備に係る検討会

平成 26 年度 検討内容のまとめ

平成 2 7 年 4 月 1 5 日

本町・八幡地区小中学校の整備に係る検討会

座 長 大 川 修 司

石狩市教育委員会

教育長 鎌 田 英 暢 様

本町・八幡地区小中学校の整備に係る検討会

平成 26 年度 検討内容のまとめ

●検討会の目的

この検討会は、少子化の進展による児童数の減少と学校施設の老朽化といった課題を抱える本町・八幡地区において、今後も『子どもたちのより良い学習環境』を確保するための小中学校の整備のあり方を検討し、市教委に意見を述べることを目的としています。

●会議の開催状況

検討会は昨年 9 月に設置され、これまで 4 回に亘り会議を開催しました。

開催した日程や、内容は以下のとおりです。

	日時／場所	次 第
第 1 回	H26. 9. 30／親船会館	1. 検討会について 2. 学校の状況について (1) 施設について (2) 児童生徒数等の推移について 3. 教育上の課題について
第 2 回	H27. 1. 13／ 八幡コミュニティセンター	1. 前回のおさらい 2. 学校の状況について (1) 管理運営費について (2) 放課後児童会（クラブ）の利用状況について 3. 最近の本市の学校統合について 4. 検討会に関する情報公開について
第 3 回	H27. 1. 30／親船会館	1. 学校の状況について (1) 管理運営費について (2) 学校現場での課題や取組について 2. これまでの検討状況について 3. これからの検討について
第 4 回	H27. 3. 26／ 八幡コミュニティセンター	1. 平成 26 年度 検討内容のまとめについて

●会議の進め方

本検討会は、『知る（今の学校のこと）』『考える（これからの学校のこと）』『まとめる（整備のあり方）』という3つのステップで進めることとし、今年度はステップ1の『知る』を中心に行いました。

その中で、石狩小学校には建設から60年近く経過している校舎があることや、石狩小学校・八幡小学校とも今後児童の数が減少していくこと、とりわけ、八幡小学校が平成28年度に複式編成になる可能性があるといった現状と、それに伴う教育上の課題を認識しました。

そして、それらの課題を解決するためには一定の規模を確保することが必要であり、その具体的な方法としては学校の統合も選択肢のひとつとなります。

ただし、学校は単なる教育施設としてだけでなく、地域の歴史や文化を伝え、コミュニティの中心となる役割も担っていることから、容易に結論を出せるものではありません。

このことから、学校統合については、今後さらなる検討が必要と考えます。

●今後の検討について

これまでの会議において、学校運営における課題の把握や、その解決のための要望については具体的な意見が出されました。

そして、これらの問題は学校だけではなく、まちづくりとも密接に関係することから、仮に学校を統合とした場合、既存の校舎を利用するのか、それとも新たな学校を建設するのかについては、地域全体の視点に立つことも必要です。

いずれにしても、大切なのは「子どもたちの学習環境を第一に考える」ことであり、今後財政面も含めて市教委が原案を示すなど、具体的な議論を速やかに進め、整備の時期を失しないように取り進めるべきと考えます。

また、これまでの議論が生かされるよう、検討会の構成員については可能な限り変更しないことが望ましいと考えます。

●検討会で確認した課題と要望

検討会で確認した課題や具体的な要望を項目毎にとりまとめた結果は以下のとおりです。

★ 検討にあたっての基本的な考え方は『子どもたちの学習環境を第一に考える』

項 目	課 題	要 望
学校規模	●学習環境の面からも、複式編成は避けるべき ✧八幡小は H28 に複式化の可能性大 ●社会性を育む（⇔人間関係の固定化） ●体育や音楽などの集団教育の効果	○子どもの活動を考えると、一定の規模が必要
学校施設	●老朽化が進んでいる ✧石狩小学校は築 58 年	*****
通学時の 安全性	●特に冬季間における石狩河口橋の通行は危険なので、スクールバスが必要	○放課後児童クラブまでの送迎も必要
校外活動	●少年団活動などの集団活動に制約が生じる	*****
保護者	●子どもを送迎する際の安全確保	○P T A 活動のあり方も同時に検討したい ✧担い手の不足（固定化）
地 域	●学校は地域の核。無くなると、過疎化に拍車がかかる	○行政区域にこだわらない統合を検討したい（特にトーメン団地） ○「学校のあり方」と「地域づくり」を並行して検討したい